

がいくせきけんみん かながわ かいぎ だい き いんていあんせつめいしりょう
 外国籍県民かながわ会議（第11期）委員提案説明資料

ぶかいめい 部会名	じょうほうぶかい 情報部会
こうせいいん 構成員	<p>さ さ き せいしょう ぶ かいちよう 佐々木 聖壘 (部会長)、ケゼンダ エドワード ムインビ、</p> <p>ティンキーコ ミリアム、なかだ 仲田 シリワン、</p> <p>パックマン ジェイサン マシュー、よう ほう 楊 芳、リディア ワンタ</p>
ないよう 内容	<p>【ICTツールを活用した外国籍県民への情報提供】</p> <p>1 ICTツールを活用した外国籍県民への情報提供 (情報①)</p> <p>【マンパワーを活用した取組】</p> <p>2 外国籍県民かながわ会議の発信力向上のための環境整備 (情報②)</p> <p>3 地域住民との交流促進のための町内会活用 (情報③)</p> <p>4 外国人の保護者に対して日本の小学校での生活を分かりやすく伝えること (情報④)</p> <p>5 外国人ボランティアを増やすプロジェクト (情報⑤)</p> <p style="text-align: right;">※ ()内は該当ページ</p>

いいんていあん きにゅうようしき
委員提案の記入様式

がいこくせきけんみん かいぎ だい まい はか あ
外国籍県民かながわ会議（第11期）で話し合いたいこと

<p>なまえ 名前</p>	<p>ケゼンガア エドワード ムインビ パックマン ジェイサン マシュー</p>
<p>ていあん 提案の タイトル</p>	<p>ICT ツールを<small>かつよう</small>活用した<small>がいこくせきけんみん</small>外国籍県民への<small>じょうほうていきょう</small>情報提供 a) <small>さいがいじ</small>災害時の多言語電子資料による<small>じょうほうていきょう</small>情報提供 b) <small>どうが</small>動画による<small>じょうほうていきょう</small>情報提供</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>a) 災害時の外国人住民支援に役立つ、いろいろな団体が準備している既存の ICT ツールや資料の存在を各市町村に周知する。 提言案： 神奈川県が各自治体と開いている災害関係の情報共有会議を通じて、ICT ツールを活用し災害時の多言語情報提供の取り組みを促進する。 1. 災害時・非常時の外国人支援のため、既存の様々なオンライン多言語資料やツールが確実に活用されるよう、神奈川県が各自治体に働き掛ける。 2. 各自治体のホームページ等で掲載すべく多言語資料を一から作るのではなく言語によっては既存の資料もありますので、既存の資料の存在を自治体に周知する。 b) 外国籍県民の生活を支援するためのビデオを作成し、神奈川県公式 YouTube チャンネル「かなチャンTV」にアップロードする。</p>
<p>りゆう 理由</p>	<p>a) 現在、神奈川県内の各自治体が災害や非常時の情報提供をそれぞれのホームページで掲載されていますが、多言語情報の対応はばらばらです。精度の低い自動翻訳ソフトで対応している自治体もあれば、丁寧に多言語情報を翻訳したり翻訳精度の高いツールを活用する自治体もあります。 災害時に、県内の外国住民が必要としている情報を作成・準備することはこれまでの課題とされてきましたが、各市町村が独自に準備するより、既存のソリューションを活用してもらった方があまり手間もかからず効率的だと考えます。 この提言は、特に多言語情報を発信するのに必要なリソースを充てられない小さな自治体に対して神奈川県が既存の資料やツールを有効に活用してもらうように働きかけ、非常時に ICT を活用することにより外国人住民に必要な情報が行き届くようにするのが本提案の趣旨となります。 実際、GLAIR（一般財団法人自治体国際化協会）という団体がこういったツールを用意していますので、ツールの存在を自治体に周知したり、また市町村のホームページが県のホームページとリンクすることで各自治体が同じものを一から作ることなく、既存のものを災害時・非常時に活用できるように</p>

	<p>して頂きたいと考えております。</p> <p>b) 神奈川の外国籍県民には色々なニーズがあり、長期居住者の場合はよくわかりますが、新規入国者の場合は事前にそのニーズが予想できません。また、横浜や川崎に住んでいる新規入国者は早く人脈を作れる場合がありますが、小さい街に住んでいる人はこういう人脈を作ることは難しいと思います。さらに、自治体は外国籍県民のニーズを把握していない場合があります、外国籍県民を支援することが難しい場合があります。</p> <p>しかし、ビデオがあれば外国籍県民はいろいろな情報を入手できます。たとえば、税金の申告の仕方、免許証の取り方、ゴミの出し方、町内会の入会方法や病院の行き方、公共交通の乗り方をビデオで紹介することができます。そして、神奈川県文化や歴史を知ってもらい、日々の暮らしに彩りを添えるため、公園や動物園や文化史跡・遺跡のビデオも作成して、紹介することができます。さらに、ビジネスなどで成功した外国籍県民を紹介するビデオも作成することができます。</p> <p>作成したビデオは神奈川県公式 YouTube チャンネルの「かなチャン TV」にアップロードすることができます。「かなチャン TV」にはこういうビデオもありますが、外国籍県民のニーズに応えられていないものもありますので、より多くの外国籍県民に必要な情報を提供できるようにするために、新しいコンテンツを作成する必要があると考えます。そうすれば、外国籍県民が質問したいときや問題に直面したとき、インターネットで検索し、「かなチャン TV」にアップロードされたビデオを見つけることができますし、情報を友達や地方の団体にも共有できます。</p>
<p>備考</p>	<p>a)</p> <p>https://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/bousai/multilingual.html</p> <p>https://www.pref.kanagawa.jp/docs/k2w/saigaijigaikokujinshien.html</p> <p>http://www.clair.or.jp/j/multiculture/index.html</p> <p>b)</p> <p>https://www.youtube.com/channel/UCgbP0Z6Tm8fIY5ILHarmzjQ</p>

いいんていあん きにゆうようしき
委員提案の記入様式

がいこくせきけんみん かいぎ だいい ま はな あ
外国籍県民かながわ会議（第11期）で話し合いたいこと

<p>なまえ 名前</p>	<p>佐々木 聖壘</p>
<p>ていあん 提案の タイトル</p>	<p>がいこくせきけんみん かいぎ はっしんりょくこうじょう かんきょうせいび 外国籍県民かながわ会議の発信力向上のための環境整備</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>提言案の狙い</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 外国籍県民かながわ会議の発信力向上の場を作る。 ii. メンバーの勉強する機会を増やす。 <p>① 県に提案したいこと：外国籍県民かながわ会議が発信できる場を用意してもらい、環境整備を行ってもらおう。事務局がハード面での整備が難しい場合は、せめて大まかな年間スケジュールを組んでもらい、連携先に繋いでもらいたい。下記のようなことは少なくとも一回を企画してもらおう。</p> <p>1. 県が主催するイベント（あーすフェスタかながわなど）で外国籍県民会議を誘致</p> <p>【案】「外国籍県民かながわ会議」としてあーすフェスタかながわの実行委員会、企画委員会に参加。最初から最後まで一つの企画を作り上げる。</p> <p>企画の形式について、例えば、県民にこれまでの提言や実績をアピール。ワークショップのように当日来場者と一緒に手作り企画など。</p> <p>2. 懇話会との連携を深める。</p> <p>【案】</p> <ul style="list-style-type: none"> I. 懇話会委員が講師となり、詳しい分野について研修講座を企画 <ul style="list-style-type: none"> 【例】部会分け後に、各部会のテーマに沿って、懇話会委員を講師として招き、勉強会を開く。 II. 懇話会委員、県民会議のOG・OBとの交流会、話を聞く会を企画 <ul style="list-style-type: none"> 【例】懇話会委員の話だけではなく、県民会議のOG・OBを招き、自分の提案について意見交換などを行う。 <p>3. かながわ国際交流財団とのコラボ企画</p> <p>【案】県民会議の委員は講師になり、年間複数回の講座の企画など講座の内容は、日本語教室や日本語教育はもちろん、多文化共生に関するフォーラム企画なども考えられる。</p>

	<p>4. 県内の外国人支援活動をしている NPO、NGO との交流会</p> <p>【案】 かながわ外国人すまいサポートセンター、地球の木、野毛坂グローバルなどなどとの交流会を企画</p> <p>内容としては、県民会議の取り組みについてアピール。先方の取り組みを聞く</p> <p>5. 委員の知識面を固めるために、見学会（NPO、NGO の取り組みを理解するために現場に訪問）、学習会（有識者を招き、お話を聞く）を企画</p> <p>【案】</p> <p>I. NPO、NGO の活動現場に訪問。取り組みについて話を聞く。</p> <p>II. 公益社団法人、財団法人（横浜市国際交流協会、川崎市国際交流センター、相模原市国際化推進委員会など）が主催する企画、講座、イベントに参加し、勉強する。</p> <p>III. 多文化共生に関して、有識者、良識者、当事者を招き、話を聞く</p> <p>② 委員に提案したいこと：より質の高い提言案を完成するために、神奈川県に在住する外国人の課題について理解を深め、知識を固める。</p>
<p>理由</p>	<p>県民会議は今期で 20 年の歴史を迎えてきた。20 年間の提言によって、様々な外国人暮らしのための政策や、NPO 法人ができた。しかし、私が県民会議について知っているかどうかというアンケートを周りの人にした。多文化共生など関心を持っている方の中でも、県民会議のことを知らない方が少なくない。</p> <p>県民会議の提言によって、問題を改善することができたということがなかなか知られていない。そういった存在感が高まらない、知名度が低いのが県民会議にとっては喫緊の課題だと考える。</p> <p>さらに、今後外国籍県民目線で問題だと思えるものを解決するために、より良い提言づくりをすることが必要不可欠である。そのために、メンバーの問題点への理解が深まることが考えられる。</p> <p>外国籍県民会議委員の問題点への理解を深めることで、提言の質をより高めることができ、より良い政策ができると考える。外国人県民がより良い生活環境ができ、もっと多くの多文化共生に関する有識者や当事者が仲間になる。</p> <p>逆に言えば、外国籍県民会議の存在感、知名度アップすることによって、より多くの良識ある者が集まり、より良い提言ができる。知名度アップや、委員の問題意識の向上といった両者の関係性が切っても切れない関係である。</p> <p>提言案の質を高めるために、やはり身の回りの現状だけ把握することが足ら</p>

	<p>ない。できれば、いろいろな勉強する、学習する場に足を運んで、そこから「自分がこれから何について提言をしたいのか」を見出す。そうすることによって、より深く質の高い、さらに客観的な提言案ができ、より良い神奈川県が多文化共生政策の実現につながると考えている。</p> <p>事務局は提言案をまとめるスケジュールの作成や、委員との連絡調整だけではなく、上記のことを達成するために、このような勉強会、見学会、学習会などを企画してもらいたい。さらに、これから外国籍県民かながわ会議の委員の一期スケジュールを組み立てることを事務局である国際課に強く強く求める次第である。</p>
<p>びこう 備考</p>	

いいんていあん きにゆうようしき
委員提案の記入様式

外国籍県民かながわ会議（第11期）で話し合いたいこと

名前	楊 芳
提案の タイトル	ちいきじゆうみん こうりゆうそくしん ちょうないかいかつようあん 地域住民との交流促進のための町内会活用案
内容	<p>がいこくせきけんみん もつとも すぴーでいー みちか さぼーと 外国籍県民を最もスピーディーかつ身近でサポートできる</p> <p>こみゆにていー ちょうないかい かつよう けん かくしちょうそん コミュニティーとして、「町内会」の活用を県から各市町村へ</p> <p>ていあん ごきょうりよく ね が 提案し、ご協力をお願いすること。</p> <p>ぐたいてき いか じちたい こくさいせいさくけんきゅうかい 具体的に、以下のことを「かながわ自治体の国際政策研究会」</p> <p>けん けんないじちたい ちよくせつ はなしあえるば けん など県と県内自治体が直接話し合える場において、県から</p> <p>しちょうそん だしん 市町村に打診していただきたい。</p> <p>ちょうないかい がいこくせきけんみん さぼーと いらい おこなう ・町内会に外国籍県民サポートの依頼を行うこと</p> <p>がいこくせきけんみん たいする ちょうないかい せいど しゅうち かにゆうてつづき ・外国籍県民に対する「町内会」制度の周知、および加入手続き</p> <p>ごあんない のご案内</p> <p>れい やくしよ ぼすたー ちらし けいじ やくしよまどぐち かんたん (例：役所でのポスターやチラシの掲示、役所窓口での簡単な</p> <p>せつめいなど 説明等)</p>
理由	<p>きそん せいど あらた じんてき ぶってきしげん とうにゆう ふよう ① 既存の制度であり、新たな人的・物的資源の投入がほぼ不要で</p> <p>かくほうめん ふたん さいしょうげん こうりつよく あることから、各方面の負担を最小限にでき、かつ効率よく</p> <p>すすめられる かんがえた 進められると考えたため。</p> <p>か こ ふたど ちょうないかい やくいん けいけん ② 過去に二度ほど町内会の役員をさせていただいた経験から、</p> <p>ちょうないかい ちいきじゆうみん おとしより がいこくせき 町内会に地域住民（お年寄りや外国籍の方）をサポートした</p> <p>ねっしん かた おおく きょうりよく えやすい かんじて い熱心な方が多く、協力を得やすいと感じている。</p>

	<p>③ 町内会の役割の再認識・再評価にもつながると考えたため。</p> <p>ITツールの発達により、情報伝達がface-to-faceである必要がなくなった今、「情報弱者」(ITに馴染みない方や言葉が通じない外国籍の方など)をタイムリーに助けるにはface-to-faceによる情報伝達のほかない。それができるのが「町内会」である。</p> <p>近年の加入率の低下など、町内会の必要性について議論される中、会が果たす役割の再確認、再評価にもつながると考えている。</p> <p>④ 日本以外にも似たような制度の国が多く、外国籍県民にもなじみやすいと考えたため。(例：東アジアやアメリカなど。)</p> <p>⑤ 外国籍県民にとってもっとも日常生活に即した情報が得やすいため。</p> <p>地域の防災や消防訓練など、日常生活の中でももっとも身近で重要な情報が得られる。</p> <p>⑥ 外国籍県民の孤立防止</p> <p>挨拶できる人、気にかけてくれる人が近くにいることの心強さ、地元イベントへの参加で日本文化に触れる機会等、外国籍県民にとってのメリットも大きい。</p>
備考	<p>face-to-faceのコミュニケーションには、言葉が大きな壁となる。そのため、地域内や周辺地域にいる先住外国籍県民やボランティア通訳の協力など、言語面におけるサポート体制の構築も必要不可欠だと考えている。</p>

いいんていあん きにゆうようしき
委員提案の記入様式

がいこくせきけんみん かいぎ だい 11 き はな あ
外国籍県民かながわ会議（第11期）で話し合いたいこと

<p>なまえ 名前</p>	<p>リディア ワンタ ティンキーコ ミリアム</p>
<p>ていあん 提案の タイトル</p>	<p>がいこくにつながるこどもとほごしやのためのしょうがっこうにゆうがくまえしえん 外国につながるこどもと保護者のための小学校入学前の支援「プレスクール オリエンテーション」の実施</p>
<p>ないよう 内容</p>	<p>①日本の小学校の様子、学用品（見本又は購入方法等）の説明、放課後のわくわく教室の案内、や学校のルールと学校で使う言葉などを多言語資料または通訳者は介して説明する。</p> <p>②入学前の準備に際し、神奈川県ホームページにおいて多言語で詳しく情報公開するなど。又は、これらを情報提供し、ボランティア並び県機関の多言語支援センターのなどの広報の協力を行うこと。</p>
<p>りゆう 理由</p>	<p>①外国人保護者に対して日本の小学校の生活を正しく、分かりやすく伝えることが大切です。または、日本の保護者にも各国の文化の理解や知識を得るためにこのようなオリエンテーションが必要と思います。</p> <p>②お子様が病気で学校をやまなければならない際に、連絡帳をどう書けばいいかわからない、またはどのように学校に連絡すればいいか困っている保護者がいっぱいいます。</p> <p>③男女が同室で体操着に着替えるのが不適切、宗教的なイベント（例：イスラム教徒は断食明け、キリスト教はクリスマスの日に学校を欠席することがある等）への配慮も必要です。</p> <p>現在、日本では24人に一人の赤ちゃんは両親またはどちらかの親が外国にルーツがある。こちらは増加の傾向は続いています。</p>
<p>びこう 備考</p>	<p>https://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000132781.html https://www.city.yokohama.lg.jp/lang/residents/ej/child/school/life/japanese.html</p>

いいんていあん きにゆうようしき
委員提案の記入様式

がいこくはまけんみん かいぎ だい ま はな あ
外国籍県民かながわ会議 (第11期) で話し合いたいこと

なまえ 名前	仲田 シリワン
ていあん 提案の タイトル	がいこくじん 外国人ボランティアを増やすプロジェクト
ないよう 内容	<p>外国人ボランティアの数を増やすために、神奈川県知事にはこのボランティア活動を支援する予算を立てていただきたいと思う。また、学校や市役所では、外国人ボランティアの募集を担当する部署を作っていただきたい。</p> <p>このプロジェクトの目標は、学校や保健所などで活動する外国人ボランティアを増やすことである。具体的な内容としては、学校においては、日本語に不慣れな外国人の保護者が子供の学校からの手紙を理解できないときに、外国人ボランティアがその手紙の翻訳や返信の手伝いをする。外国人の保護者は、子供たちの学校に直接ボランティアを申し込むことができる。</p> <p>保健所や役所においては、外国人ボランティアが外国人への書類作成の手順や日本の制度の翻訳、説明をし、時には書類作成自体の手伝いをする。外国人は自分の区役所で直接ボランティアに申し込むことができる。</p> <p>下記に記すように、政府からの翻訳、または通訳における支援を必要とする外国人が多くいます。</p> <p>外国人が助けを必要とする場所</p> <ol style="list-style-type: none">1. 学校：学校情報、教師との面談、PTA 活動の際2. 区役所：住宅登録や赤ちゃんの健康診断の際 <p>通常、学校や区役所に翻訳、または通訳が必要な場合は、国際交流センターや区のラウンジなどに連絡することができます。しかし通訳が少ないため、対応が遅れる、場合によっては通訳が見つからない可能性があります。</p> <p>また、困っている外国人を助けたいと考える外国人の中には、ボランティアになる機会を探している人もいます。そこでの問題は、どこに申請すればよいかわからないことです。加えて、申請するにしても、多くの個人情報を開示しなければならないことについて不安を感じる人は少なくありません。</p> <p>したがって、少ない手続きで申請を簡単にすることができる、政府による外国人ボランティア制度をコミュニティで提供することは、外国人が日本に住みやすくなる一つの方法となるはずです。その際、申請は名前と連絡先、活動がで</p>

	<p>きる時間など記入事項をできるだけ少なくし、申請する場所も活動する場所と一致させる必要があります。例えば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校：外国人の母親が学校に直接申し込むことで、学校に関する通訳のボランティアになることができます。 2. 区役所：外国人ボランティアが申請を行うためのカウンターを設け、活動がある際に随時連絡をします。 <p>さらに、時には政府が賃金と交通費を負担する必要があると考えるため、福祉支援をする機関を設けなければなりません。</p>
<p>りゆう 理由</p>	<p>神奈川県に住む在日外国人の人口が増加している。そして、すべての外国人が英語や中国語のような日本でもよく翻訳がされている外国語でのコミュニケーションができるわけではない。この状況に伴って、外国人が学校や保健所においての手続きや情報伝達を行うには今の支援では不十分である。そこで、外国人ボランティアが両者の通訳者、仲介役となれば、スムーズに対応することが可能になる。これらの外国人ボランティアは、予約や相談を受けたときに駆け付けることができれば、困っている外国人を手助けできることはもちろん、学校や保健所にとっては頼りにしやすい団体である。</p> <p>このプロジェクトは、機会を増やし、外国人ボランティアを募集するためのより多くのアクセス可能なチャネルを開くために、神奈川県政府の支援を受けなければならない。</p>
<p>びこう 備考</p>	